丁寧な作業に心掛け、地域の信頼を得る
～少しでも手をかけて、良いものを提供したい～

豊田市　有我　泰（うがやすし）さん
水稲・小麦・大豆

【平成２３年９月１２日掲載】

豊田市で、水稲・小麦・大豆を生産する農事組合法人桝塚会（以下、「桝塚会」という）の代表理事である有我　泰さん（写真１）を紹介します。有我さんは長年にわたり、水田作に携わり、地域の模範となったその功績が評価され、平成２２年に黄綬褒章を受章しました。過去には日本農業賞個人経営部門において農林水産大臣賞などを受賞しています。

写真１　有我泰さん

１　経営の概要

有我さんは、農業高校を卒業後、就農され、水田作に従事して４５年余りになります。昭和５３年（当時は任意組合）から現在に至るまで、豊田市上郷地域の担い手である桝塚会の代表を務めています。

桝塚会は、構成員７名で、この中に有我さんの奥さん淳子さん、長男の保さんが含まれます。経営規模は水稲２７ha、小麦３７ha、大豆３３haを栽培し（写真２、３）、部分作業延べ１０７haを受託しています。

写真２　水稲生育の様子

経営の特徴は種子生産を行っているところです。水稲においては、豊田市が唯一の産地である愛知県が育成した病害虫複合抵抗性をもつ「大地の風」の種子を生産しています。小麦においては「農林６１号」の種子を生産し、採種面積の県内シェアは２８％あり、県下において重要な役割を担っています。

全ての農産物の出荷・販売は、あいち豊田農業協同組合を通じて行っています。

写真３　大豆生育の様子

２　手間を惜しまない管理

有我さんが管理する水田は、手入れが行き届き、一見するだけで他の生産者と見分けがつくと地域の人々に言われています。

特に種子生産ほ場においては、種子は商品であるため、雑草、異品種の除去や適期収穫などに細心の注意を払って管理することが求められています。このため、ほ場１筆ごと見て回って、

異品種や雑草を取り除く作業を行い、倒伏回避のために施肥量を抑え、高品質な種子を生産しています。

（1）健全な苗づくり

水稲の苗の生産では、育苗箱に木箱を用いています。これにより根の張りが良くなり、健全な苗づくりができるそうです。生産した苗は、地域内の注文したお客さんに届けられ、しっかりした苗だと好評を得ています。

（2）土づくり

一般的に、耕起はロータリーで行われることが多いのですが、鍬（プラウ）を使って耕しています。この目的は作土を深くし、排水性を高め、雑草種子を埋没させるためです。これにより土壌改良資材の投入効果も手伝って水稲の根の張りは良くなり、登熟期でも止葉の葉先枯れがなく、健全な生育を保っています。

（3）小麦・大豆作における排水対策

各集落の水田では、エリアごとに水稲－小麦－大豆体系の２年３作が行われています。水稲作の後作になる小麦・大豆作では、湿害を避けるための排水対策が重要となります。そこで、水稲を収穫した直後に、ほ場の外周に深さ３０㎝の明きょを掘り、明きょと直行する形で暗きょを施行し、ほ場の排水性を高めるよう管理されています。

３　地域の信頼を得る

地域の人たちが、預けている田んぼを丁寧に一生懸命管理する有我さんの姿をみれば、このひとは信頼できる人なんだと思うのは当然だと考えられます。有我さんに対する地域住民の信頼は、絶大であると言わざるをえません。

そんな有我さんは、農協の理事や豊田農事法人会の会長、豊田加茂水田営農対策協議会会長など歴任し、地域に貢献をされています。

農事法人会会長の時には、近隣の大手農事組合法人に、指導的立場として、水稲、小麦、大豆作の良質生産に向けたアドバイスを行い、地域全体で栽培技術を向上させようと尽力されました。

さらに桝塚会の構成員のみなさんも、地域から信頼が厚く、出身集落の一員として、農事組合長や農協理事、土地改良区総代などに携わり、有我さんの奥さんは、女性初の農業委員を歴任しています。

４　今後の取組

「昨年やったことをそのままやるだけ」と語る有我さん。その言葉には、長年培った自信がうかがえます。

「今後、さらに、お客さんから農地を預かる機会が多くなり、経営面積は増えていく。その対策として、丁寧な作業を前提に、効率化を図り、構成員の人数を増やしていきたい。将来的なことは、次の代にまかせたい。」と語られました。

執　　筆：農業経営課
取材協力：豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課

Copyright (C) 2011, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.